

採寸IoTデバイス・画像コミュニケーションサービスのプロトタイプ制作 “SHUTT”

Measurement IoT Device and Image Communication Service Prototype Production “SHUTT”

岡崎 大祐 Daisuke Okazaki

デジタルハリウッド大学大学院 修士

趣旨と背景

モノづくりに代表される建築リフォーム工事現場では、突発的でイレギュラーなモノ探しに翻弄される。

ここに収まる部材がほしい…、このイメージのオリジナルサイズ部材がほしい…、この部材はどこから調達すればいいかわからないけれど追加でほしい…。ニッチ部材であれば、検索に半日程度を要することもよくある。電話・FAXなどのアナログ的なコミュニケーションが通例のため、非効率なたらい回しが横行する。小規模事業者であればあるほど調達に時間がかかり、その母数も多い傾向がある。人手不足・生産性向上の必要性が叫ばれる昨今、モノ探しの時間削減は渴望されている。

そこで、モノ探しの時間を短縮することができるIoTデバイス・サービスのプロトタイプを開発した。

課題解決策

IoT・画像認識の技術で、モノの寸法値やイメージ画像を簡易取得できるキーホルダー型小型デバイス・アプリ・Webクラウドサービスを開発する。スマホカメラをかざし、ポンと押せば情報(画像・サイズデータ・パーソナルデータ)がサーバーに即座に送られ、ネットワークサービスと接続する仕組みである。

必要とするモノ・よくわからないモノについて早く、正確に情報整理できるだけでなく、ネットワーク上の広大なプラットフォームに伝達することも可能。共通の画像情報でコミュニケーションが可能になることで、モノ探しの時間を大幅に短縮・効率化できるようになる。例えば、eコマース上でのジャストサイズ品の検索・検索依頼ができたり、ニッチなモノと直感的に出会うことも可能となる。

特徴

1 ポータブル(キーホルダー型)、シンプル、安価

測定器具の概念を取っ払い、より身近で普及性の高いプロダクトにしている。画像処理技術とローラー型の物理入力デバイスを組み合わせることにより、直寸・曲寸の簡易入力ができるシンプルな設計で、他には存在していないプロダクト。

2 ソフトウェアとのサービス連携

ソフト側でできること、ハード側でできることを明確に分業して補い合うことで、単なるプロダクト体験だけではなく、サービス体験を提供していく。

今後の展開

IoTとWebサービスについて、生活のあるべき姿の観点から研究し、人々の豊かな時間を生み出すサービスを構築していく。直近はテストマーケティングとして建築分野でのテクノロジーの応用について研究し、その上で、eコマース全体への展開をしてサービスを更に拡大していく。

モノ探しの時間短縮だけでなく、商品購入・拡販機会を創出することで、物販以外での定期収益を得ることができると期待している。

図1: SHUTT (ロゴ)



図2: SHUTT (デバイス・Webアプリケーション イメージ)

